

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月29日

事業所名 発達支援ルームAQUA

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	・個別から多くても3人までの利用者で使用している。 ・利用児の年齢があがると身体が大きくなり施設内では適切な空間ではないが、地域の施設や外出活動などを利用して工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	7	1	・安全確保などの観点から、利用者一名に対しスタッフ2人を配置している場合が多い。 ・職員の体調不良や家庭の都合などで十分な配置が難しい時があるが、来所を止めたり保護者に見守りをお願いするなどして対応している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	・現状としては段差も低いので、歩くことのできる肢体不自由のお子さんでも対応できている。	・利用者に応じ、バリアフリー化等について検討する。 ・玄関のマットがときどきめくれて転びかけることがある。必要性について検討したい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	・毎回、本人に合わせた遊びの提供を行っている。毎日清掃作業を行っている。また、使用後は毎回消毒作業を行っている。 ・毎朝の清掃と、毎時間ごとに消毒をしている。 ・構造化して遊ぶ場所とゆっくりできる場所を分けることができるようになっている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	・毎回、活動終了後にスタッフミーティングを行い良かった点と改善点を話し合い次のセッションにいかしている。 ・午前、午後の始まりと終わりにミーティングを設けている。	・全職員の意見を反映出来るような体制作りが必要であると認識し、取り組みたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	・意見箱を設置している。 ・保護者からの意見があった場合は、スタッフ皆で情報を共有し、改善点を話し合い支援の質の向上をはかっている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	・自己評価を実施した後、HPに公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3		・第三者委員会の設置については今後の課題とする。また、設置の有無について、スタッフ間での共有が不十分なので、会議等で周知の徹底を図りたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	・月に一度の勉強会と研修への参加を積極的に行っている。 ・事業所内でケース検討を定期的に行ったり、研修会への参加をしている。	・スタッフの専門性や個別の関心に合わせた研修会(特に症例検討)の計画・立案に努めたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	・専門職を配置し、検査などのアセスメントに従事させている。	・継続する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	・必要なアセスメントツールを適宜組み合わせ使用している。	・継続する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0		・対象児により異なるが、さらなる充実に向け、取り組みたい。また、支援ガイドラインについて職員の理解を深められるように研修会などを実施し、さらなる充実を図りたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	・支援計画を作成した指導員を中心に支援の具体的な内容を検討し、実施している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	・午前と午後開始前に事前にプログラムを検討実施している。	・困ったときに相談しやすい関係性ではあるが、それぞれの職員が忙しくてゆっくり話をする時間が少ない。適切な時間管理等の対応を検討したい。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	・子どものやりたい遊びを中心に、やった!できた!を引き出せるような遊びを展開するようにしている。 ・困ったときには相談しやすい関係性ではある。	・遊びが同じになりやすくバリエーション増やしたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	8	0	・個別活動と集団活動それぞれのメリット・デメリットを踏まえた上で、支援計画の作成に努めている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	・毎朝、午後開始前にミーティングを行いスタッフ間で確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	・午前の終わりや午後の終わりの2回振り返りの時間を設けている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	・活動記録を毎回記入し、それを見ながら前回とは違った活動にはなるべくならないよう工夫してしている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	・子供の状態の変化や保護者のニーズを適宜取り入れられるように努めている。		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0		・可能な限り参加しているが、全てとは言えないため、今後は出来るだけ参加できるように努めたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	・ケースによっては連携している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	4	・該当者なし。 ・医療ケアの必要な利用児はいない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	3	・該当者なし。 ・医療ケアの必要な利用児はいない。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	・保育所訪問時やモニタリング会議の場で、近況の様子を話し合い情報共有に努めている。 ・移行支援シートを活用している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	・移行支援シートを活用している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	4	・発達障害者支援センター等が主催する研修会等に参加できるように努めている。 ・今年度は県外の児童発達支援事業所の専門家を外部講師に招き(ZOOM)研修を行うことができた。	・継続して実施する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	8		・本所の利用児はほぼ全員地域の保育園等に通園しているため、交流の必要性は低いと考える。 ・事業所として交流の機会を持つ可否か、今後の課題である。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	6	2	・管理者が参加者している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	・保護者で送迎して頂いているので、報告や連絡をしている。 ・保護者の方も来所するので、子供の状態などを聞くように心がけている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	6	・移行支援シートの作成は実施しているが、その他集まって勉強会を開くことは現状としてはない。 ・保護者の困り感にあわせて個別に面談してお子さんの状態を伝え、ホームプログラムを考える機会はある。	・個別相談とは別に、親子向けの教室(講座)のような形態での利用についても今後検討したい。 ・ペアレント・トレーニング等の実施については、保護者のニーズを把握し、可能な限り対応していきたい。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	・契約時に個別に説明するとともに、重要事項等は事業所内に掲示してお伝えしている。	・継続して取り組みたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	・今後も丁寧な説明を行い、理解を得られるように努めたい。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	・来所時に気になることを連絡票を記入してもらっている。また、子どもにも気になる様子がある時などには積極的に声かけし、保護者の悩み等に対応している。	・継続して取り組みたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	8	・保護者向けの勉強会を行っており、その中で保護者同士のつながりを保障していると思う。	・定期的にそういう集まりがあると、もっと情報を得られやすいかもしれない。今後、実施を検討したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	・来所時に気になることを連絡票を記入してもらっている。相談がある時は別途時間を設け、担当者を中心に対応している。	
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	4	・会報はないが、連絡体制としてはメールを利用し必要な事があれば随時、発信している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	・個人情報があるものは鍵付きの棚で保管している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	・それぞれの子どもや保護者の特性について職員間で共有し、適宜対応している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	7	・実施していない。	・地域の福祉祭り等での、ポスター展示等による周知は実施しているが、地域の方を招待するような行事等は行っていない。当事業所の活動を理解してもらえるような遊び体験教室などを開催できるか検討したい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	・実施している。	・全ての保護者に周知することはできていないようなので、今後周知の仕方について検討する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	・年2回、定期的に避難訓練を実施するとともに、その様子を事業所内に掲示している。	・継続して実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	・事前に保護者から聞き取りを行い、職員間で共有して対応している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	4	・食事やおやつ提供はしていないが、調理実習の際はアレルギーがないか事前に保護者に確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	・事例集はないが、毎日のミーティングでヒヤリハットがあった場合報告して共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	・研修に参加したスタッフが伝達講習を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	3	・該当者なし	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。